

第2回景観ビジョン推進部会での主な意見（PDCAに関する事項）

■対象事業の設定

- 災害復旧事業の取り扱いについて、一律に対象から除外してよいのか検討が必要
 - ⇒ [仮復旧、復旧、補修など] と [本設、復興など] は分けて考えるべき
 - ⇒現状の維持復旧にかかるものを対象外にするということであれば分かる
- アドバイザー会議に諮る事業を選定する際、「景観形成上の影響が大きい」とする事業の選択は、アドバイザーの意見も取り込んだほうが良い

■アドバイザー会議

- 全て20分～40分取って、正式に図る必要はなく、目標設定についてのみアドバイスを受けるなど、部分的にアドバイザー会議を受けることも可能としてはどうか

■目標設定

- 景観上、何が大事なのかということを、目標設定シート①のSTEP3（事業地周辺の景観の特徴の確認）とSTEP4（景観形成の目標）の間に書くとよい
- 目標設定シート②は、チェックシートに近いものなので、それほど文章はいらない
 - ※チェックの欄を追加し、コメント欄は一行程度にする
- 目標設定シート①で示す具体的な対応方針の欄については、もっと広くしても良い
 - ※達成シートも連動して修正する
- 目標設定シート②は、基本設計で全ての項目を書き込むことは難しい場合もある
 - ※基本設計と実施設計のいずれでも記載できるような様式にするのが望ましい
- 目標設定シート②にも目標設定の欄を設けると、目標設定シート①、②、目標達成を確認するシートで流れが分かりやすくなる。

■事業完了後の評価

- 事業課で自己評価を行うにあたり、評価指標があると評価しやすいのではないかと。
- 達成確認の際には、事業課による自己評価の後、メタ評価として第三者の評価を受けるのが望ましい
 - ※件数にもよるが、景観アドバイザー会議にかからなかった案件についても同様
 - ※達成シートにアドバイザーの評価欄を設ける（欄は一言程度でも構わない）
- 評価は、A、B、C、Dなどで付けることも考えられる
- 評価の内容をどこまで公表するのか検討が必要（庁内向け、一般向けそれぞれについて）

■プロポーザル・コンペ

- 特に景観上、重要と思われる案件については、条件設定のタイミングから景観の視点でアドバイスできることが望ましい
- 事前の確認が無理な場合には、コンペに通ったものについて、景観アドバイスを受けるよう条件づけることも有効

■市町村景観アドバイザー会議との関係

- 市町村のアドバイザー会議で受けた意見について、市町村へ対応を報告する前の段階でアドバイザーへ相談されることが望ましい

■要綱に定める「PDCA」

- 制度全体でのPDCAか、アドバイザー会議でのアドバイス実施とその対応という意味のPDCAか、どの部分を対象に要綱を定めるのかの整理が必要